

2024年1月20日（土）

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育ユニット

文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制の充実に関する調査研究」事業 シンポジウム

結城一高の外国人生徒支援 ～ 教え合い 学び合い ～

茨城県立結城第一高等学校長 堤 祐二

※無断での使用・複製・改編・公開・頒布はご遠慮ください。
引用する場合には、必ず出典を明記してください。
(本シンポジウムの報告者・登壇者の配布資料であること)

県立高等学校改革プラン 実施プランⅠ期（第2部）での位置付け

- 茨城県高等学校審議会答申（平成30年12月）
 - ・ 高校教育を取り巻く**社会の変化**や、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望等の多様化
 - 県立高等学校改革プランの基本プラン**（平成31年2月）
 - ・ 「**地域の中の学校**」として地域の人財を地域で育成
 - ・ 新たな価値を創造する「**起業家精神**」を育成
- 県立高等学校の果たすべき役割

県立高等学校改革プラン 実施プランⅠ期（第2部）での位置付け

○基本プランに基づいた実施プランⅠ期（令和2～5年度）

- ・ 県教委と各校のビジョンに沿った魅力づくり
- ・ 新たな時代に対応した高校の設置
- ・ エリアの課題に対応した学科の設置など



「AI・IoTなど科学技術の進展」や「IT人財の不足」、
「日本語を母語としない生徒の増加」などの社会の変化や
地域のニーズに対応することが必要

県教育委員会公表（令和3年8月）

外国人生徒等への支援の充実（令和4年度開始）

■ねらい 日本語を母語としない生徒も個々の能力を発揮できる教育体制を構築することで、地域社会の担い手を育成する。

	石下紫峰高等学校（常総市）	結城第一高等学校（結城市）
学校コンセプト	基礎学力の定着の上に、キャリア教育推進、コミュニケーション力育成、多文化共生（語学力強化）を柱として、生徒の進路実現を目指す。	知育・徳育・体育の健やかな成長を図り、社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努める。
学習支援 言語能力に応じた習熟度別学習の実施	入学する生徒の言語能力に応じて、国数英などで習熟度別学習（取り出し授業やティームティーチング）を実施し、日本語の習得や、各教科における専門的な用語や抽象的な表現などを含む学習内容を理解できるよう支援する。 さらに、2・3年次において英語が得意な生徒のレベルアップを図るための発展的な学習を行う。	
※入学する生徒の状況等により習熟度別学習を実施する科目を変更する可能性あり	<想定科目（例）> 国 語：「現代の国語」「日本語基礎＊」「日本語発展＊」 英 語：「論理・表現」「総合英語」 数 学：「IS(イズ)ベーシック＊」 公 民：「公共」 ＊学校設定科目	<想定科目（例）> 国 語：「現代の国語」「言語文化」 英 語：「論理・表現」「英語コミュニケーション」 数 学：「数学Ⅰ、Ⅱ」 公 民：「公共」
学校生活の支援体制の構築 学校、関係機関等が連携したチームでの支援	日本語を母語としない生徒も安心して学校生活を送るとともに意欲的に学習に取り組めるよう、両校に新たに配置する外国人生徒支援コーディネーターと学校、関係機関等が連携して支援を実施 <コーディネーターの業務内容> ・ソーシャルワーカー的業務 生徒指導、保護者対応、学校生活のための手続き等を支援（通訳・翻訳等） ・カウンセラー的業務 学習面・生活面での生徒の相談体制を構築 ※その他、専門的見地からのアドバイスや教員研修等を実施	
入試関係 外国人特例枠の拡大応募資格の緩和等	募集定員4学級160人 うち特例枠40人	募集定員3学級120人 うち特例枠40人
	【学力検査】国数英の3教科 検査問題へのルビ振り 【応募資格】入国後3年以内 → 在日期間の制限なし	
	⇒ 2校でモデル的に実施	

1 沿革

- 明治30（1897）年、町立結城蚕業学校として開校
令和4（2022）年、創立125周年を迎える伝統校
- いくたびかの学校の改編があり、
現在は全日制普通科3学級を募集する高校
- 地域に親しまれている「けやき」の木は、
明治31（1898）年、当時の文部大臣が植樹



2 外国人生徒の在籍状況

○結城市は茨城県の県西部に位置、栃木県小山市や真岡市に隣接

○本校の生徒の在籍者数は約250人

・ **結城市、筑西市、小山市**からそれぞれ約**3割**の生徒が登校

○外国人生徒は**約60人**が在籍

・ パキスタンやフィリピン、ブラジルなど**11カ国**

○外国人特例選抜は募集人員40人枠でR5は18人の応募

・ 入学者の総数は90人（募集定員120人）（R4は105人）

3 改編前の外国人生徒支援体制（～R3）

- (1) **教え合い、学び合い**の活動…休み時間や放課後も活用
 - ・外国人生徒が日本人生徒に得意な英語を教える。
 - ・日本人生徒が外国人生徒に日本語や地域の文化等を教える。→ **互いに不得意な点を克服**する活動
- (2) 少人数・習熟度別学習… **2教科5科目**で実施
- (3) 地域交流
 - ・伝統的な文化・産業、**本場結城紬の織り方を体験**
 - ・1年生がクラスごとに実施

3 改編前の外国人生徒支援体制（～R3）

（4）課題と今後の対応

○課題

- ・主に母国語を話す生徒と保護者の対応

学習指導の支援、**諸経費**の支払い手続きなど

→県のグローバル・サポート事業

結城市や小山市の国際交流協会等からの通訳派遣

3 改編前の外国人生徒支援体制（～R3）

（4）課題と今後の対応

○今後の対応（R4～）

- ・ **外国人生徒支援コーディネーター**や**日本語指導員**を配置
 - ・ 日本語指導を必要とする生徒の**アセスメント**と
校内支援体制への**助言**など
 - ・ その上で、**きめ細かな指導体制**を構築
- 可能な限り、外国人の生徒や保護者のニーズに対応

4 新たな外国人生徒支援体制（R4～）

（1）外国人生徒支援委員会の設置

<委員長>校長 <副委員長>教頭、事務長

<委員>外国人生徒支援コーディネーター、日本語指導員
教務主任、各学年主任等

（2）外国人生徒支援コーディネーターと日本語指導員の配置

○外国人生徒支援コーディネーターの業務（県がNPOへ委託）

- ・ **生徒指導、保護者対応等の支援**や、**学習面・生活面の相談**など

○日本語指導員の業務（国からの加配）

- ・ 各学年と外国人生徒支援コーディネーターとの**連絡調整**など
- ・ 主に**1年生の支援**、校務分掌は1年生に配置

4 新たな外国人生徒支援体制（R4～）

（3）日本語指導等の実践に向けた支援（県が筑波大へ委託）

○DLA（Dialogic Language Assessment）の実施

- ・ **分析結果の共有**と**支援計画等の助言**など

○キャリア支援の実施

<地域理解の育成>

- ・ キャリアワークショップ（月1回程度）
- ・ サマースクール（8月に6日間）

<他者理解の育成> **（本校独自）**

- ・ 生徒指導主事講話（週1回程度）

4 新たな外国人生徒支援体制（R4～）

（4）少人数・習熟度別学習等の拡充（県による加配）

○実施する教科・科目数（R6完成年度・予定）

・ 2教科5科目から **6教科1領域12科目**（特別の教育課程含）に**拡充**

→ **2人・3人**の教員による**チーム・ティーチング**等

○就学支援金や学校諸納入金の事務手続き

・ 事務室 **3人**体制から **4人**体制に**拡充**

<参考> 1人1台タブレット端末の整備

・ 本校は**創立125周年事業**（R4）で**同窓会とPTAが整備**

→ **全生徒に無償で貸与**

・ 本県はタブレット端末は原則BYODで対応

4 新たな外国人生徒支援体制（R4～）

(5) (1) から (4) を踏まえ特別の教育課程の編成・実践（R5～）

○「**日本の言葉と文化**」を**1年**に開設

→教育課程内・週時程外に年間70単位時間程度

放課後日本語教室と**サマースクール**で実施

○放課後日本語教室（R4は希望者のみ）

<日本語指導>

・**日常生活に必要な語彙力**等を**3段階**に分け**段階ごとに実施**

→**DLAを参考**に外国人生徒支援委員会で協議

・時間は15:40～16:30

Aクラス（初級前半）…火・金（4月9人→10月**4人**）

Bクラス（初級後半）…月・木（〃5人→〃**6人**）

Cクラス（JLPT対策）…水・木（〃6人→〃**10人**）→N2取得を目指す

4 新たな外国人生徒支援体制（R4～）

（5）特別の教育課程の編成（R5～）

○放課後日本語教室（R4は希望者）

<キャリア支援>

・キャリアワークショップ（月1回程度）

→テーマは、

「**自分を知る・互いを知る**」「**未来を考える**」など

・生徒指導主事講話（週1回程度）

→テーマは、

「**学校のルール**」「**地域での関わり方**」など

4 新たな外国人生徒支援体制（R4～）

（5）特別の教育課程の編成（R5～）

○サマースクール（R5の例）（R4は希望者）

・ 8月に6日間実施（1・2・8・9・22・23日）

→時間は**前半**と**後半**に分け10:00～12:00

・ **地域社会**についての**必要な知識を学び行動する力を身に付ける**
などが目的

→前半は**日本語教室**（基礎指導又はJLPT指導）

後半は**結城のまち歩きフィールドワーク**（事前・事後・発表含）

・ フィールドワークの訪問先

→奥順 武勇酒造 真盛堂 秋葉糰味噌醸造 シェ・チャン・モリ

4 新たな外国人生徒支援体制（R4～）

<授業評価アンケート（R5年9・12月実施、外国人生徒20人）>

○放課後日本語教室の授業を通して（9→12月）

- ・ **生活態度が身に付いたか**

「とてもそう思う」…5 → 11人 「そう思う」…13 → 7人

「あまり思わない」…2 → 2人 「思わない」…0 → 0人

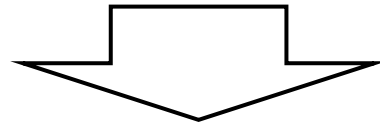
- ・ **文化や風習が理解できたか**

「とてもそう思う」…7 → 10人 「そう思う」…12 → 7人

「あまり思わない」…1 → 3人 「思わない」…0 → 0人

5 目指すべき結城一高の役割

- 日本人と外国人の方々が、協力し合い、**地域の文化や産業の振興に寄与**
 - ・ **幅広い知識や教養を身に付ける**教育活動
 - ・ **豊かな人間性を培う**教育活動
 - ・ **郷土を愛し協力し合う心を育む**教育活動など
 - 外国人生徒への具体的な支援の在り方を研究・検討・実践
 - ・ **教員一人一人が使命感をもって生徒に寄り添う**教育活動の構築が必要
- **人的な加配**（日本語指導員、T T、事務職員）
指導の助言・支援（筑波大、N P O、県教育委員会等）



日々の課題を外国人生徒支援委員会が常に整理し、限られた予算の中で最大限の効果が発揮できるよう、国や県、地域等と連携を図りながら、外国人生徒の一人一人の支援の在り方を研究・検討・実践する体制が求められる。

5 目指すべき結城一高の役割

<参考データ>

○結城市と筑西市、小山市の在留外国人の状況等（R2.12）

結城市…**約2,500人**（県10位） 筑西市…**約3,000人**（県6位）

小山市…**約7,000人**（栃木県2位）

○本県と栃木県の在留外国人の状況等（R2.6）

茨城県…約70,000人（全国10位） 栃木県…約45,000人（全国16位）

○各自治体の人口

結城市…約5万人 筑西市…約10万人 小山市…約16万7千人

茨城県…約284万人 栃木県…約193万人